

目次	お知らせ	327
	日本植物学会第72回大会報告／高橋奏恵	327
	第26回青空地衣教室（栃木県銀山平）の報告／木下靖浩・安斉唯夫	328
	第26回青空地衣教室（栃木県日光市銀山平および小滝の里跡）で観察された地衣類／原田 浩・木下靖浩・安斉唯夫	329
	第26回青空地衣教室に参加して／今井正巳	330

### 会務および他の地衣学関係報告 Report of the JSL and other Lichenological Activities

#### 日本植物学会第72回大会（高知）報告

Reports of Lichenological Activity during the 72nd Annual Meeting of the Botanical Society of Japan at Kochi University (Sept. 2008) / TAKAHASHI Kanae

高橋奏恵：広島県環境保健協会

2008年9月25～27日高知大学朝倉キャンパスにて日本植物学会第72回大会が開催されました。今回、シンポジウムとして「日本地衣学の過去と現在、未来」と題し、7名による講演がありました。はじめに、吉村庸先生（服部植物研究所）が「日本地衣学の歴史」について詳細に説明されました。リンネ、アカリウスの時代にまでさかのぼり、19世紀半ばから後半にかけての外国探検隊による日本国内での地衣類調査でたくさんの重要な標本が採集されたこと、日本の研究者が外国人研究者へ地衣の同定依頼をすることから日本地衣学の本格的な研究が始まったこと、そして近年になって海外の研究機関との交流によって標本の貸し出し閲覧が盛んに行われるようになり、国内研究者による独自の研究が活発に行われるようになったことなどが述べられました。続いて、原田浩氏（千葉県中央博）の「地衣類の分類」では、



図1. 吉村先生のご講演。

地衣類の分類において重要視されている様々な形態形質や生態的特性などについて説明がありました。特定の分類群の研究に加え、地域の地衣類相解明が分類学者に課せられた大きな課題であることを指摘し、日本の地衣

類相解明のためには未検討の属や科の検討が必要であると結びました。原光二郎氏（秋田県立大）は「地衣類の分子生物学」について講演し、現在おこなわれている系統分類および二次代謝の研究への分子生物学的手法の応用について、自身の研究に加えて諸外国研究機関で行われている研究を紹介しました。また、地衣類のゲノム解析が進められる可能性についても触れ、地衣類における今後の分子生物学の展望を述べました。木下薫氏（明治薬大）は「地衣成分の化学」と題し、日本における地衣の二次代謝産物の研究の歴史を紹介しました。また、天然地衣体と培養地衣菌から単離された新規化合物についての紹介があり、天然の地衣から分離培養した地衣菌は天然地衣体を含む成分とは異なった化合物を生成することなどが説明されました。竹下俊治氏（広島大・院・教育）は「地衣共生藻の科学」と題し、地衣菌が地衣体を形成する際の共生藻の由来について、ウメノキゴケやシロムカデゴケを例に紹介しました。分子系統学的研究から、同一種の地衣菌における共生藻の選択性

は、生育環境の差異に応じて多様性が認められたことなどが説明されました。佐藤和彦氏（兵庫県立大・院・生命理）の「地衣類の乾燥生理」では、地衣類の強い乾燥耐性に関するこれまでの研究成果が発表されました。地衣における乾燥耐性について、単独状態の共生藻の乾燥耐性の生化学的しくみや、共生による乾燥耐性増加のしくみなどが説明されました。最後に、小峰正史氏（秋田県立大）は「地衣類の培養と栽培」について講演し、地衣類が有用資源として医薬品や染料などへ活用されるにあたり、地衣類の組織培養や大量促成栽培が必要不可欠であることを述べました。地衣類の培養法、栽培法の現状・問題点について、現在行われている研究を紹介しながら説明されました。

各分野の地衣研究者が一同に会し行われたシンポジウムはスケールが大きく、非常に聞きごたえのあるものでした。地衣類を扱った様々な研究分野についての講演を聴き、研究材料として、生物としての地衣類のおもしろさ、魅力といったものを再認識させられました。

## 第26回青空地衣教室（栃木県銀山平）の報告

Report of the 26th Outdoor School on Lichens at Ginzan-daira (Tochigi-ken), 14 Sept. 2008 / by KINOSHITA Y. & ANZAI T.

木下 靖浩・安齊唯夫：地域活性化委員会関東

栃木県日光市において第26回青空地衣教室が開  
催されましたので、報告いたします。

\* \* \*

開催日：2008年9月14日（日）

開催場所：栃木県日光市銀山平キャンプ場および小  
滝の里跡

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者数：13人（講師を含む）

\* \* \*

関東地区での青空地衣教室の開催場所は、地衣  
観察の場所をご紹介することを考えて、いろいろな  
場所で開催するように努めていますが、今回は初め



図1. テントにびっしりと生えた地衣類を観察。

栃木県で開催することができました。

銀山平は足尾銅山に近く、交通手段はわたらせ渓谷鉄道があるとはいうものの、便利とはいえない場所ではあり、また三連休の中日の開催であったにもかかわらず、13名の参加を得て開催することができました。

午前中の観察場所の小滝の里跡（標高約700m）は庚申川沿いに平らな場所が少し広がったところで、足尾銅山の隆盛だった時期には、銅山鉱夫の集落のあったところですが、カエデなどの樹幹や小枝に多種の葉状地衣を観察することができました。

午後は観察場所を銀山平キャンプ場（標高約800m）に移して観察を行いました。このキャンプ場には布製の常設テントがあるのですが、そのテント布地にびっしりと葉状地衣が着生しており、着生場所の向きによる形態や色の違い（日当たりの違いによると思われる）を興味深く観察しました。

今回の青空地衣教室の開催に当たり、場所の選定などに多大な御協力をいただいた、小澤武雄氏に感謝いたします。

## 第26回青空地衣教室（栃木県日光市銀山平および小滝の里跡）で観察された地衣類

Lichens observed during the 26th Outdoor School on Lichens at Ginzan-daira (Tochigi-ken), 14 Sept. 2008 / by HARADA H., KINOSHITA Y. & ANZAI T.

原田 浩<sup>1)</sup>・木下 靖浩<sup>2)</sup>・安齊 唯夫<sup>2)</sup>：1) 千葉県立中央博物館・2) 地域活性化委員会関東

2008年9月14日

### 栃木県日光市小滝の里跡で観察された地衣類

*Flavoparmelia caperata* キウメノキゴケ  
*Heterodermia japonica* クロアシゲシゲシゴケ  
*Hypotrachyna nodakensis* ノダケウメノキゴケ  
*Hypotrachyna revoluta* ハコネゴンゲンゴケ  
*Hypotrachyna koyaensis* コウヤウメノキゴケ  
*Menegazzia terebrata* センシゴケ  
*Myelochroa irrugans* ウチキウメノキゴケ  
*Myelochroa metarevoluta* コフキチヨロギウメノキゴケ  
*Parmelia fertilis* トゲナシカラクサゴケ？  
*Punctelia borreri* ハクテンゴケ  
*Rimelia clavulifera* マツゲゴケ

### 栃木県日光市銀山平で観察された地衣類

*Alectoria lata* ホネキノリ  
*Bryoria furcellata* コフキイバラキノリ  
*Bryoria trichodes* ハリガネキノリ  
*Buellia* sp. スミイボゴケの仲間  
*Cetrelia braunsiana* トゲトコブシゴケ  
*Cetrelia nuda* トコブシゴケ  
*Cladonia coniocraea* ヤリノホゴケ  
*Cladonia humilis* ヒメジョウウゴケ

*Cladonia macilenta* コアカミゴケ  
*Flavoparmelia caperata* キウメノキゴケ  
*Heterodermia microphylla* チチレウラジロゲシゲシゴケ  
*Hypotrachyna koyaensis* or *H. nodakensis* コウヤウメノキゴケノダケウメノキゴケ  
*Hypotrachyna ossealba* ゴンゲンゴケ  
*Lecanora imshaugii* レカノラ イムシャウギイ（チャシブゴケの仲間）  
*Lecanora sibirica* モエギイボゴケ  
*Lepraria atrotomentosa* レブラゴケ  
*Menegazzia terebrata* センシゴケ  
*Myelochroa irrugans* ウチキウメノキゴケ  
*Nephromopsis ornata* ウチキアワビゴケ  
*Parmelia squarrosa* カラクサゴケ  
*Parmelinopsis minarum* トゲウメノキゴケ  
*Phaeophyscia rubropulchra* コナアカハラムカデゴケ  
*Physciella melanchra* ムカデコゴケ  
*Platismatia interrupta* ウスパトコブシゴケ  
*Pyxine soledata* コナクロボシゴケ  
*Rimelia reticulate* オオマツゲゴケ  
*Usnea* sp. サルオガセの仲間

## 第26回青空地衣教室に参加して

My experiences at the 26th Outdoor School on Lichens at Ginzan-daira (Tochigi-ken) / by IMAI M.

今井 正巳：神奈川県相模原市

9月14日に銀山平キャンプ場で開催された青空地衣教室（-わたらせ渓谷鉄道に乗って足尾に行こう-）に参加させていただきました。銀山平は以前青空地衣教室が開かれた赤城山の東北東約23kmにあり、庚申山や日本百名山の皇海山（すかいさん）の栃木県側からの登山口になっており、標高は約800mです。

当日朝は傘をさして川崎を出てきたのですが現地付近につれ青空が顔を出し、観察地では強い日差しが照りつけていました。諸般の都合により乗る電車が一本遅くなってしまった私は（関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました）、午前中の観察地には行けませんでした（そんな私がなぜレポートを？）大変充実した観察会が行われたようです。

栃木名物のチタケや手打ちそばなどが味わえる食堂で昼食のあと銀山平キャンプ場での観察会が行われました。キャンプ場の樹木にはウチキウメノキゴケ、カラクサゴケ、ウスバトコブシゴケ、コナアカハラムカデゴケ、コフキチョロギウメノキゴケなどの多くの葉状地衣が着生していて、講師の原田先生の説明を熱心に聴いてはメモを取り、写真撮影やルーペでの観察に列をつくっていました。

銀山平キャンプ場にはバンガローで宿泊ができますが、床の上に張った大型のテントも貸し出してあり、快

適な野営気分を味わえるようになっていきます。テントには常設されているものがあり、その外張りに葉状の地衣がびっしりと着いていました。テントは東向き北向きと面がはっきり分かれている為、面の向きによって同じ種類の地衣でも陽のあたり方による特徴の出方の違いがわかるようになっていました。日陰だとこんな感じになるとの説明にいろいろと質問がでたり、また、参加者一同、「これかぁ・・・」と、予告され色々想像していた正体を好奇心いっぱい眺めていました。

個人的には難しそうと思っていた痂状地衣ですが、今回、モエギイボゴケの説明で周辺部が菌糸でケバケバになっているといわれ、痂状でもいろいろな特徴があるんだと認識を新たにルーペで観察していました。またレブラゴケの説明で、縁部に黒っぽい（白っぽいものもある）毛の塊のようなものありこれがレブラゴケである、との解説に、「あ〜」、「ほんとだあ〜」との歓声があちらこちらからあがっていました。

今回は個人的にいろいろな発見もあり、とても意義深い観察会でした。

皇海山の上のほうはオオシラビソ等の針葉樹林帯とのこと。どんな感じだろう？一度登っておかないと、と思いました。

---

### ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

#### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 90, pp. 327-330: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 27 November 2008.

---

日本地衣学会ニュースレター 90号

発行日：2008年 11月 27日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

---

©2008 日本地衣学会 (© 2008 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。